

【3日目/5月24日(つづき)】

羽田～石垣線はもちろんジェット機でしたが、石垣～与那国線は小型のプロペラ機です。以前、羽田～伊豆諸島線や、北海道内の路線はプロペラ機と言えば、国産の「YS-11」が主流でしたが、今は旅客機からは引退しています。

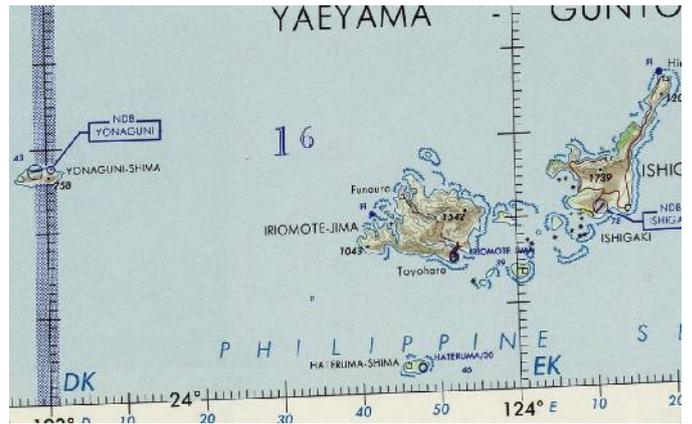


今回乗ったのは、カナダ製の「ボンバルディア DHC-8-Q400CC」という機種です。YS-11 の後継機として広く導入された機種で、琉球エアコミューターでは、現在この機種 5 機のみで運行されています。



「ボンバルディア DHC-8-Q400CC」の特徴は、貨物室が広いことです。離島便は旅客の運送はもちろんのこと、離島の生活を維持する為に、郵便物や物資の輸送という役割も担っています。その為、客室後部に大きな貨物室を有するのです。貨物室を大きくした結果、旅客定員は 50 名ちょうどです。50 名以下の旅客定員の場合、客室乗務員は 1 名でも運行できるというメリットもあるのだそうです。実際に今回の与那国往復では、往きは 2 名の客室乗務員でしたが、帰りの便

は 1 名でした。琉球エアコミューターは JAL グループの航空会社なので、垂直尾翼には日航の鶴のマークが付けられています。



(航空地図 ONC-H12/1:1,000,000)

私は与那国行は左側の窓際を予約しました。航路を考えると、左側に八重山の島々がよく見えると思ったからです。席は機体中部の翼の部分でしたが、実はボンバルディア機は「高翼機」で、客室よりも上に翼があるので、どの座席からも下がよく見えるのです。



思った通り、離陸から数分で眼下に「竹富島」が見えました。隆起サンゴ礁の島独特の、砂浜に囲まれた丸い形状がよく観察できました。



飛行高度も低いので、昨日自分が歩いた道や描いた建物、小学校の校舎や建物まで、ジオラマ模型のようによく見えました。



遠くに見えたのは「黒島」です。石垣島からの船の便も少なく、これといった観光名所もないので、訪れる観光客が稀な「不遇な離島」です。空から眺めて、次回は行ってみたいと思いました。



次に眼下に見えてきたのが「小浜島」です。今回「行きそびれた」離島です。砂浜が美しいことで知られますが、島の東側の半島に大きなゴルフコースがあるのが、ちょっと残念です。



小浜島の至近距離にある大きな島が「西表島」です。西表島には空港がないので、昨日も船で往復しました。西表島だけは、島全体が雲に覆われて、ほとんど見えませんでした。時刻表では石垣発 10:05、与那国着 10:35 で飛行時間は 30 分ということになっていますが、実質的に空を飛んでいるのは 25 分ぐらいで、離陸体制が終わったら、もう着陸態勢という感じでした。

それでも景色は抜群に良かったし、沖縄のジュースのサービスまでありました。運賃は片道 1 万円ちょっとでしたが、定期航空路線なのにまるで「遊覧飛行」のように楽しく、ちょっと得した気分でした。8 割ぐらいの搭乗率で、私の右隣の席は空いていました。観光シーズンではない平日のローカル線にしては、まあまあの搭乗率だと思いました。



ほどなく与那国空港に到着しました。小さな空港なので乗客はターミナルまで歩きです。



ついさきほどまで雨だったようですが、到着した時は青空も見えていました。梅雨時の八重山旅行の割には、今回は本当に天気には恵まれたと思います。



与那国空港は、離発着とも一日に 4 便だけなので、ターミナルも小さいです。席数の少ない待合室と、数軒の小さな売店がある程度でした。